

卒業生の活躍の様子からさぐる未来

2018～2019.1 EXHIBITION

七夕能

▷大濠能楽堂
2018年7月8日(日)
岡部由紀子(2期)、荒木希代(3期)
大内田明子(3期)、新海佳織(4期)
盛かおる(4期)、相澤久美子(5期)
森本美生(5期)、近藤啓子(6期)

出店

糸物語

▷はかた伝統工芸館
2018年9月13日(木)～18日(火)
荒木希代(3期)、大内田明子(3期)
深堀由美子(9期)

企画展

博多織展

「ダンボールで織る ミニタペストリー」

▷「博多町家」ふるさと館
10月7日(日)
新海佳織(4期)、盛かおる(4期)
近藤啓子(6期)

イベント

Weaver×Weaver それぞれのかたち

▷おりおり堂
2018年10月31日(水)～11月4日(日)
盛かおる(4期)

企画展

伝統工芸 匠と語るタペ 繋ぐ・絆 —巨匠と若手の語らい—

▷2018年11月1日(木)
荒木希代(3期)

イベント

そめもよう×織り色

▷松楠居
2018年11月9日(金)
～11日(日)
岡部由紀子(2期)
古賀陽子(2期)
新海佳織(4期)
盛かおる(4期)、相澤久美子(5期)
森本美生(5期)、近藤啓子(6期)



企画展

博多四季の会 春風亭一朝・ 春風亭一之輔 親子会

▷JR九州ホール
2018年12月16日(日)
田代和子(2期)、片木奈津子(8期)
養田晶(7期)、深堀由美子(9期)

出店

イトから始まる物語

▷新天町村岡屋ギャラリー 3階
2019年1月8日(火)～13日(日)
11:00～18:00(最終日16:00まで)
荒木希代(3期)
大内田明子(3期)
深堀由美子(9期)

企画展



Next EXHIBITION

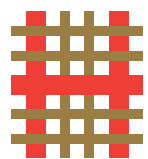
博多織でおり作家展 ～手から手へ～

▷アクロス福岡2階 匠ギャラリー
2019年2月18日(月)～24日(日)
10:00～18:00
(初日12:00から)
(最終日16:00まで)
岡部由紀子(2期)
新海佳織(4期)
近藤啓子(6期)

企画展



NEWS NHK『WORLD JAPAN』で KIMONO REVOLUTIONが紹介されました



博多織 DC

本誌の内容に関してのご意見、ご感想等はこちらまで！

情報誌 おりおり便 発行日/2019年2月10日
編集・発行/博特定非営利活動法人 博多織DC
〒812-0014 福岡市博多区比恵町20番19号
TEL.092-472-5102 FAX.092-472-5103
http://www.hakataoridc.or.jp

博多織の未来を見守る賛助会員募集中

詳しくはホームページをご覧ください。

編集後記

小さな学校が13年かけて社会に届けてきた“作品”が卒業生・在校生の様々な活動であることと改めて感じます。学校を起点としたこの一つの“織物”をさらに磨き上げていきたい。HDCの挑戦が続きます。

理事・広報委員長 坂口光一

博多織DC 13期生募集中

詳しくは、メール又はお電話でお問い合わせください。
TEL:092-472-5102 FAX:092-472-5103
Email:hakataori@forest.ocn.ne.jp (担当:野口)



コトコト織ってコツコツ学んでドンドン伝える

おりおり便

vol.17
2019 Spring
博多織 DC

博多の秋を彩るイベントに博多織DCも参加 さまざまな情報発信を行っています！

35回を迎える由緒あるイベント KOGEI EXPOで機織りを実演

第35回を迎えたKOGEI EXPOは、日本の伝統工芸への理解を深めるイベントです。福岡での開催は30年ぶりとのこと。博多織、博多人形、久留米絨といった福岡を代表する工芸品はもちろん、普段あまり見ることのできない全国のさまざまな工芸品が会場のマリンメッセ福岡に一堂に介した刺激的な3日間となりました。そんななか、博多織DCでは、学校の紹介、及び私たちが普段使用する絹糸が出来るまでの一連の流れを紹介するコーナーを設けました。なかでも、たくさんの方に反応を頂いたのが機織りの実演&体験コーナーです。「楽しかったからまた来たよ!」と何度も足を運んで頂いたり、他の工芸職人さんに声をかけていただいたり、外国人の方にも興味を示して頂けたりと、全国規模であるこのイベントだからこそ出会いが沢山ありました。足の使い方や糸の扱い方、打ち込みの強さなど、初めての方に博多織の織り方や特徴を伝えるのはとても難しかったのですが、自分たちが初めて機に座った時を思い出しながら楽しく伝えることが出来ました。(レポート:12期生 井上結香子)

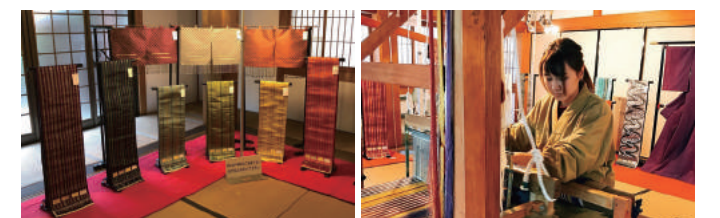


▶ 開場を彩る巨大な山笠にも博多織が

博多織の新作発表会 「求評会」で12期生の作品も登場

博多の秋を彩る博多織のイベント「九評会」。今回博多織DCからは、10期生の研究科生3名と、12期生7名の総勢10名で参加させていただきました。特に12期生7人は、「五色献上」ならぬ「七色献上」といった形で虹色に並ぶ献上帯を制作。多くのお客様に「すごいね」「同じ柄とは思えない」といった感想を頂きました。博多織に携わる職の方たちからは「これは売れそう」「ここがまだ甘いね」といったお言葉も頂戴しました。素直な感想に励まされたり、アドバイスを頂いたり、本当に多くの刺激を受ける事が出来ました。また、体験機を置いていた為、多くの方々にも体験して頂きました。「全身を使ったのにこんだけしか進まない」「私でも織れた」など、私達ではもう当たり前になっていたことに様々な感想を頂き、初心を忘れずに小さな事に感動出来る事が大切だなと感じました。

本会場ではメーカーや作家達の新作発表が行われていました。それでもまだまだひよっこな私達は、「これはどうやって織っているのだ」「すごい、かわいい」と言った感想が尽きませんでした。私達にとってこういった発表会は初めてで、自分の作品制作に対するこれからのあり方や周りからの評価など、本当にたくさんの事を勉強する事が出来ました。(レポート:12期生 城戸那菜子)



Report

博多織 × X

— 伝統に新しいスポットライトをあてる —

KOGEI EXPO in FUKUOKAの開催に先立ち、福岡の誇る伝統工芸「博多織」に新しいスポットライトをあて、根源的な価値として再発見、再認識していく場としてセミナーを企画しました。3名のゲストスピーカーをお招きし、さまざまな立場から博多織をどうプロデュースするべきかをアドバイスいただきました。



他人の考えも取り入れる角度と先が見えないことを選ぶ覚悟

第1回 6/21

清川進也 さん

(音楽作家、イベントプロデューサー)

音楽を軸にしたプロデュースの仕事をされている清川さん。お仕事をされる上でのキーワードは「角度と覚悟」とお話をいただきました。角度とは企画のことで、覚悟は成功体験のこと。そのためには「余白」が大事だとも。「角度」の中では、自分だけの考えでは自分を超えないから他人の考えを入れる隙間を作っておくことを大切にされているそうです。もう1つの「覚悟」では、先が見えない、わからない方を選ぶことを

大事にしているとか。そうした心がけが、たくさんの企画を成功に導いているようです。

博多織に関しては「紋紙＝オルゴール、3回の叩く音が仕事リズム」と清川さんらしい言葉で表現されていました。何かを創る場合のヒントとして「もしもシリーズ」をつくるアドバイスをいただきました。しかも「極端かつ大胆に、近場で探さないこと」とのこと。他にはなかなかない新しい発想をする清川さんの話は、面白くかつ衝撃的でしたが、これからの作品作りのために、とても役立つものでした。

(レポート:12 期生 井上七緒)



広告は、未来をつくる仕事 やったことのないことをやる

第2回 7/5

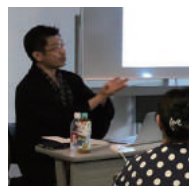
上野達生 さん

(コピーライター、CMプロデューサー)

私たちは、毎日平均3,000のマーケティングメッセージに触れて生活しているそうです。上野さんは、そんなクライアント側の要望と商品の原点をとりいれた世間を発信し、その先にいる人の行動に影響を与える仕事をされています。自らの仕事を「広告とは、未来を作る仕事である」とお話されます。例えば、手掛けられた仕事のひとつ、ジャニーズメンバーを起用したJR九州のCM。この仕事では、メンバーの一人ひとりが主人公の旅を繰り広げる世界観を展開しています。これによって、ファンに聖地巡礼を促し、ラッピング列車はSNSによって

拡散され、枠内にとどまらないアイデアの数々は九州外の視聴者の心まで掴み、新しい顧客獲得へとつながったそうです。こうした上野さんならではの間口の広げ方には、3つのポイントがあるそうです。一つは、みんな言いたい情報をさがしている。そこで、情報を提供すること。そして、相手のファンを自分ファンへ引き込む戦略的な掛け合わせ。さらに、やったことのないことをすること。これが未来を作る要素となり、よそ者、バカ者、若者がきっかけとなると教えてくださいました。今後の博多織の未来がどうなっていくのか。先人が積み上げてきた博多織のもののづくりのあり方に、間口を広げた戦略的思考を加え、伝統を継いで行く人材となればと思います。

(レポート:12期生 西田由紀)



革靴をやめると伝統ではない“今の何か”にかえなくては

第3回 7/25

岡野博一 さん

(博多織工業組合理事長、(株)岡野 社長)

岡野さんが社長を務めておられる岡野は創業121年目しかしそのうち99年間は専属下請けで、取引先が下向きだと自社も下向き。「これではダメだ」とメーカーになり、自身で東京に帯を100本持参し80本を売ったそう。「自分の頭で考え、自分で動く」とおっしゃり、小売業者が潰れ出したら「自分で売るしかない」と、15年前から自分で売っている」とか。そして、業界常識からの脱却・着物のSPA化・ブランド化・企業化を目指しているそうで「みんなできるのに、できないと思ってい

る」「ファーストペンギンになりたい」とおっしゃります。「日本の付加価値は国と協力しないと上がらない」「日本はすごいと思わせるのが下手」「作家のストーリー性を大切に、職人としてではなくアーティストとして成り立たないといけない」とも。また「伝承とは一を一で伝える。伝統とは一に今の時代のものを加えて伝える」「革新をやめると伝統ではない。“今の何か”に変えていく」「伝説ができると誰かに伝えたい。だから伝説になりたい」など、大変貴重なお話を聞けて、伝統と伝承の違いを聞いて、ハッとしました。今教えていただいている事に何を加えられるか、今後頑張らなくてはと思いました。

(レポート:12期生 加茂万里江)

フランスでTissage Nishiを起業して

卒業生 西智子さんからの便り

早いもので、渡仏してから1年7ヶ月が経ちました。まだまだ仕事に余裕がある状況ではございませんが、博多織の関係者様にお世話になったお礼と近況をお伝えしたく筆を執ります。私は2017年6月に渡仏し、Tissage Nishiを起業しました。博多織DCでの技術内容を活かしたく、現在フランスで2010年の研修先であるSOIRIE DES FANTASQUES と共にドイツの仕事に携わり研鑽しています。未熟な私が、こんなにも早い段階で仕事を任せていただけるようになりましたのも、博多織DC関係者様のご指導のおかげと改めて感謝しているところです。2019年度は、フランスのアトリエ移転に伴い、移転先のオーストリアで製作を継続する予定にしています。慣れない生活は、資金面や人脈を確保するのに時間がかかりますが、日々刺激ある毎日を過ごしています。2018年12月には、リヨンのクロアルースにある幼稚園で博多織の帯を締め、お茶のお点前を披露しました。様々な文化圏の子供達に、個性豊かな反応で博多織に興味を持ってもらう事が出来ました。なかなか皆様にはお目にかかれませんが、今後ともよろしく願います。

西智子(3期)

TissageNishi atelier.hkt@gmail.com



◀アトリエ移転予定のオーストリア「Haslach an der Mühl」の街の教会。チェコの国境近くの小さな街ながら、リネン織物の産地。織物の美術館もあり、文化交流地点になっている。

入賞・入選 情報

第65回日本伝統工芸展 染織部門

入選 盛 かおる(4期生)
一重経間道帯「流れる夜夜に」

第74回県美術展覧会(県展) 工芸部門

入賞 福岡県美術協会賞 荒木希代(3期生) 筑前生絹帯「夏柳」
入選 大谷雅志(8期生)「水底」
入選 大淵和憲(8期生)「絹雲踊る」

デザイン部門

入賞 福岡県教育委員会賞 荒木希代(3期生)「海面水温上昇」
入賞 福岡県美術協会賞 井上七緒(12期生)「3R」
入賞 岩田屋三越賞 加茂万理江(12期生)「Mr&Mr」
入選 城戸菜那子(12期生)「さす?刺す?」
入選 西田由紀(12期生)「家族の健やかな成長を願う」

第42回福岡県伝統工芸品展

入賞 福岡市長賞 近藤啓子(6期生) 手織り八寸なごや帯「春羽衣」

第116回博多織求評会

入賞 福岡県伝統的工芸品振興協議会長賞 森本美生(5期生) 手織り男帯「波」
入賞 岩田屋三越賞 近藤啓子(6期生) 手織り八寸なごや帯「飛天」

これからどうする?どうなるべき?



博多織DCアンケート調査2018
皆様にご協力いただきました。

この度博多織DCでは、今後のカレッジ運営のみなさまと広く検討していくための、アンケート調査を実施しました。開校から13年が経ち、多くの卒業生を輩出して参りましたが、まだまだ博多織業界で活躍する卒業生を輩出するためにも、学校自体の継続や成長・進化というのが課題とされてきました。そのような中でこれからの取り組みべき課題や進むべき方向性を見出すために、皆様にご意見を伺わせていただきました。このアンケートの結果、みなさまからは学校に対してとても高い評価をいただいていることが改めて認識されました。また学校が輩出した卒業生に対しても高い期待と関心を皆様に持って頂いていることが感じられました。その反面学校はどのように卒業生をサポートしていくのか、これからどのような卒業生を輩出していくのかを懸念し課題として認識されていることがわかりました。今回いただきましたアンケート調査の結果をもとに博多織デベロップメントカレッジの進むべき方向性を見出し、卒業生が博多織業界でより活躍できるよう取り組んで参ります。次世代の博多織業界を担うモノづくり、コトづくりのできる人材をこれからも育成し続け、博多織業界の未来が明るいものとなっていくよう博多織デベロップメントカレッジはこれからも成長し続けて参ります。今後ともご支援ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い致します。アンケートの結果は、ホームページにアップ致します。

<http://www.hakataoridc.or.jp/>

副理事長 庄嶋健